


派遣報告書

平成24年 8月20日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員

梓島和江 

次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1 派遣期間 平成24年 8月 6日 (月) から平成24年 8月 8日 (水) まで
- 2 派遣先 根室市、釧路市、帯広市
- 3 視察 (調査) 議員名 ^(倉吉市議会) 金丸隆、福谷直美、梓島和江
- 4 面会者 各市担当者 別紙の通り
- 5 派遣目的 根室、釧路 北方領土問題について、生活保護支援プログラムについて
- 6 視察の経過及び感想 帯広、観光交流政策施設「とからむら」について

別紙報告の通り、

特に北方領土返還運動の父と呼ばれる、1945年当時の根室町長 安藤石典氏が本市西倉吉町 (当時小鴨村岡田) の生れ地で、あごとは郷土の誇りでもある。

- 7 添付書類 「北方領土」「母子世帯の母親の自立に向けて」
(1) 「生活保護の状況」「観光交流政策施設「とからむら」の概要」
(2) 写真 各種、地、

要した経費： 3 人合計 467,130 円

平成 24 年 8 月 11 日

倉吉自民 会派行政視察報告書

金光 隆、福谷 直美、梓島 和江

日時 平成 24 年 8 月 6 日-----8 日

目的地 根室、釧路、帯広 各四市

連日 35 度を超える猛暑が続く。テレビは、ロンドンオリンピックでの男女の受賞を報じている。広島では今日 67 回目の原爆忌。国会は消費増税を柱とする社会保障・税一体改革関連法案の行方に暗雲立ち込め始めている。

早朝 5 時、あたりは暗く少しひんやりと肌をなでる空気は秋の訪れを感じさせる。鳥取空港までのシャトルバスは、私たちを含む 6 名を乗せて出発。5 時 29 分。

台風の接近が予報されたが、7 時 5 分快晴の鳥取空港を離陸。

わずか 1 時間 15 分で羽田空港に着陸。新千歳空港行きに乗り換えは待ち時間なしで移動。

羽田空港は夏休みお子様連れでにぎわう。

新千歳空港から根室中標津空港行きに乗り換えて、隣の男性と語る。中標津空港から 5 分の村で酪農を営み、妻は長崎から農業研修生できたことが縁で結婚した。長男夫婦と孫 3 人、二男は東京、娘は道内へ嫁いでいる、親父とピザなし交流で国後島を訪問し元住んでいたところに立って、「わしが死んだらこれはみんなお前の土地だから、」と言い残して亡くなったが、いつのことかわからない。子供たちには遠い歴史の一角になってしまう。政府は本気で交渉してほしいと語っておられた。

中標津空港から根室まで列車はありませんがどうしていかれますか。と心配していただけで別れた。小さな乗り合いバスがまっていた。信号もない山もない高速道路のような大陸縦断道を 2 時間あまり走る、こんもりと見える森は「みずなら」の林、野生のシカのすみかでもありシカの飛び出し注意。草原の中には美しい紫色の「ヒオウギアヤメ」が今を盛りに群生している。北の大自然を満喫する。

14 時 30 分。根室市役所に到着、市役所玄関正面に、北方領土返還運動の父と呼ばれる 1945 年当時の根室町長「安藤石典」氏の写真が置かれている。高さ 1 メートルもあろうか市民はもとより訪問客に北方領土返還の思いを熱くするものである。この人こそ、鳥取県倉吉市の出身である。帰宅して西倉吉町にある先祖の墓地にお参りさせていただいた。もっと地元の人々に「安藤石典」の遺徳を伝えたい思いを熱くした。

視察研修内容

8月6日(月) 14:45—16:00

根室市

「北方領土問題について」

1、経緯、実情、今後の対応等、

根室市議会会議室において、市議会議長 波多雄志氏の歓迎のあいさつを受ける。

根室市総務部北方領土対策課、北方領土対策主査 西田 悟氏より説明を受ける。

四島は日本固有の領土であり居住した歴史と文化をはぐくんできた人々の故郷であることを忘れてならない。北方四島の歴史と不法占拠された経緯、元居住者の思い、パスポート・ピザなし交流事業の開始等説明を受ける。{資料添付}

市役所の車で移動、空はどんよりと曇って四島の島影は見えない。晴れた日はすぐ近くに肉眼でよく見えるらしい。あいにくの天候であったが、「北方館」の双眼鏡でのぞくと、島の灯台がめのまえにせまった。納沙布岬に位置する「北方館」・「望郷の家」を視察研修する、

目の前に広がる太平洋に浮かぶ島は、この岬から3キロから145キロの距離に位置している。島々を望みながら歴史的経緯の説明を受け今なお元の生活に戻れない元住民の多くの方々の思いを自分のこととして、より一層返還要求運動へ参加すべく意を強くし、一筆署名する。

北方館の展示物の最初の肖像写真は「安藤石典」鳥取県出身、に改めて敬意と感謝。

しかも先祖は倉吉市西倉吉町とのこと。市民、町民の誇り感じた研修となった。

望郷の岬公園には四島を表現した返還祈念シンボル像「四島のかけ橋」が建立されかなたの島を望み、絶えることのない炎が燃え続けていた。

市役所のちかくにある「安藤石典」氏の墓所に案内してもらい、返還運動へのより一層の参加を誓い参拝した。

8月7日(火) 5時58分出発 JRで約2時間半移動

途中シカが線路を我が物顔で横断、飛び出し、警笛に驚くでもなく、列車が一時停止、ノロノロ運転、北海道ならではの風景に出会う。

気温も18度前後、米作は適さない湿原が広がる。酪農が主たる産業

釧路市役所 9:00—10:30

駅に出迎えを受ける。

生活保護自立支援プログラムについて

1、概要、経緯、現状等

釧路市議会会議室において

議会事務局長 山根誠一氏 歓迎のあいさつ

釧路市福祉部 生活福祉事務所

所長補佐 早竹 誠一氏 より説明を受ける、

生活保護の現状

人口 182,263人

生活保護被保護人員 10,019人(24年6月)

平成21年度以降 保護開始が減少、保護廃止が増加、開廃比率減

21年度 開廃比率 1,70

22年度 1,53

23年度 1,32

保護開始の主な理由

就労収入減、傷病、主死亡離別、

保護廃止の主な理由

就労収入、死亡・失踪、その他

生活保護受給母子世帯自立支援モデル事業(平成16年度～平成17年度実施)

ワーキンググループ、釧路市、ハローワークと連携して支援事業受託事業所

として教育訓練機関、介護福祉施設、介護事業所、NPO法人等を選任

協力により、働く喜びが収入につながり母子世帯の自立にいたる。

このモデル事業を参考に母子世帯以外の生活保護受給者の自立支援プログラムを作成した。生活保護からの廃止がすすんでいる、

子どもの居場所「冬月荘」の設置

循環する環境を変える、負の連鎖を断ち切るために、釧路市が補助金を出してあき家を活用して設置、

若くて母子家庭となった母の中には、貧しいため義務教育だけで社会に出て子育ても十分できないまま母親となる。ましてや子供の教育に無関心。働く能力、職場も見つからない。行き着くところが生活保護。その連鎖を断ち切るために

は、子供たちの生きる力をつけることが大切と考えた。

「冬月荘」に集う子供たちの変化

- ① 唯一の楽しみの場所、触れ合う人が多くなった、親に楽しさを話す、後輩とふれあい宿題を教え、自分の復習にもなる、学ぶことが楽しい、自分と異なるタイプの人とも触れ合うことができる、
- ② 存在を認めてもらえる場所、今まで暗く過ごしていた、誰かにあえる場所

「冬月荘」に通う大人のボランティア

- ① 長い間姉の介護で働くことができなくて保護を受けていた。高齢者が教えることで生きがいを感じた、茶髪、ピアスの子供たちにたしなめると、「かみつく」ではないかと構えていたが、普通の子供たちであった。
- ② 今は目的ができて、教える準備も楽しい、人生は面白いな、精神的にも「生きている」という感じ、自立できた(もとは学習教材の会社に勤務した人)ボランティアの人件費はインターンシップ事業を活用
 釧路市は、就職希望の子どもに対して、自動車運転免許取得費用を支援している。免許がなければ就職できない、受験窓口での資格要件となっている。貧困の連鎖を防ぐための支援。

自立支援プログラムを行うこと背景

雇用情勢の低迷と保護率の解消

ケースワーカーを高齢者世帯と一般世帯に分ける

地域生活支援員 ヘルパー資格

自立生活支援員 2名配置(国庫10分の10で雇用)

今回の研修は特に母子世帯の母親の自立に向けての研究から波及した保護世帯の自立、および扶助費の大きな削減に及んだ事例であり本市においても、学ぶものがある

資料のまとめにあるように、

「自立に向けては、地域全体での支援が必要です。」

「母子世帯の母親は子育ての担い手であり、貴重な労働力です」

「幅広い地域政策全体で、受け止めていくことが大切です」

肝に銘じて、支援の輪を広げたいと思う。

13時25分発 特急で約1時間半移動

平原から次第に丘陵地がみえる。のんびりと草をはむ乳牛の群れ、帯広へ走る

帯広市役所 15:00—16:30

駅に担当職員の出迎えを受け、市役所会議室へさっそく(お茶ならぬ、冷たい牛乳の接待を受ける。本物の味十勝の牛乳を一気に飲み干す。ふるさと自慢の心遣いに感動。とてもおいしかった。)

帯広市商工観光部 観光課観光振興係 加藤 帝 氏に説明を受ける。

「とかちむら」は、観光交流拠点施設整備事業として、平成22年8月6日グランドオープン、民設、民営で、土地は帯広市が賃借したものを無償で貸与、建物は民間会社が資金を借入して建築、その利子を市が補助している。詳しくは資料添付。ばんえい競馬、幸福駅のハッピーセレモニー、とかちむら、屋台村など観光について説明を受ける。

移動してばんえい競馬場、隣接のとかちむらを見学、競馬場は休日、観光資源は準備されるが、思いがけないことに《幸福駅》が外国人に人気があるらしい。

夕方から街のにぎわいがおこる。今日は8月7日1月遅れの七夕の催しらしい。女の子は色とりどりの浴衣姿、屋台店も通り道がない。大変なにぎわいを誘うのはどんな仕掛けがあるだろうと不思議な旅の宵祭りにであった。

8月8日(水)早朝9時宿を発つ予定通り新千歳空港で東京に。

新千歳空港出発ロビー近くに、社会福祉法人 北海道母子寡婦福祉連合会経営によるカフェテラス「ぼれん」がある。大変なにぎわいである。6人の母子家庭が、交代で勤務している、ここにも、母子家庭の自立につながる就労の場所がある。コーヒーを注文して収益のほんの一助に。

東京発 19:40

鳥取空港に降り立ったのは21時。少し涼しく感じた。朝夕の気温で鈴虫の声を聴き9月議会に思いをはせる。倉吉着22時。